

2005年度 公立大学協会図書館協議会研修会

米国の大学図書館における  
学習・教育活動の支援：  
アーラム・カレッジの事例をもとに

2005.8.19.

大学教育機能開発センター

長澤 多代

# 発表の概要

## 前半

- ▶ 大学図書館における学習支援
- ▶ ファカルティ・ディベロップメント
- ▶ 米国における高等教育と図書館の略史

## 後半

- ▶ アーラム・カレッジ図書館における学習支援
- ▶ アーラム・カレッジ図書館における教育支援
- ▶ 図書館における学習・教育支援のポイント

# 大学図書館における学習支援

目標のレベル	主な方法
印象づけ	ポスター, パンフレット, サイン
サービス案内	オリエンテーション, 図書館ツアー
情報探索法指導	レファレンス指導, 学科関連指導
情報整理法指導	レファレンス指導, 学科関連指導
情報表現法指導	レファレンス指導, 学科関連指導

# ファカルティ・ディベロップメント

- ▶ 教員開発 (FD: Faculty Development)  
授業観察, コンサルティング, ワークショップやセミナー
- ▶ 教育開発 (ID: Instructional Development)  
コースやカリキュラムのデザイン・実施・評価
- ▶ 組織開発 (OD: Organizational Development)  
大学経営陣を対象にした組織改善の活動

スタッフ・ディベロップメント (SD) との関係

# 米国の高等教育と図書館

	高等教育	図書館
19C 前半 まで	全人教育(英国の影響) 古典的カリキュラム 暗誦中心の授業	図書館は大学の 飾り
19C 後半	科学の重視(ドイツの影響) 科学中心のカリキュラム 講義・討論・ゼミナールの導入	コレクション拡大 図書館利用の講 義科目
1970 年代 以降	学生志向の教育(学生運動) 学習法に関する科目 討論・卒業論文の導入	多様な利用教育 の実施 教員への支援

# 米国の高等教育と図書館 1636年から19世紀半ば

- ▶ イギリスの影響のもとに大学が創設される。
- ▶ 教育目標：秩序に従う学生を育成する。
- ▶ 授業：ラテン語の教科書を暗記して読む。
- ▶ 図書館：蔵書は偶然的な寄贈に頼る。  
開館時間は週に数時間のみ。  
貸出は禁止されている。

# 米国の高等教育と図書館 1870年代から1890年代

- ▶ ドイツの大学の理念や制度が導入される。
- ▶ 教育目標：学生を知的に訓練する。
- ▶ 授業：講義法，討論法，ゼミナールによって進められる。
- ▶ 図書館：蔵書が拡大され，目録法が整備される。  
開館時間の延長  
指定図書制度や図書館利用の講義

# 米国の高等教育と図書館

## 1960年代から1970年代

- ▶ 学生紛争の中で、学生中心の教育が求められる。
- ▶ 教育目標：学生の学習スキルを向上させる。
- ▶ 授業：講義だけでなく、討論や卒業論文が導入される。リーディング・アサインメントの導入。
- ▶ 図書館：図書館利用教育の充実・発展。  
全国的な図書館団体による支援。



# 研究の視点

▶ なぜ学生の学習活動を支援するようになったのか。また、これをどのように支援してきたのか。

▶ なぜ教員の教育活動を支援するようになったのか。また、これをどのように支援してきたのか。

▶ なぜ学内の他部局と協力して教員の教育活動を支援するようになったのか。また、これをどのように支援してきたのか。

# 先行研究

- ▶ ブランスコム (Harvie Branscom)  
『Teaching with Books』
- ▶ ナップ (Patricia Knapp)  
Monteith Collegeの事例研究
- ▶ ファーバー (Evan Ira Farber)
- ▶ ブレイビク (Patricia Senn Breivik)  
『情報を使う力』
- ▶ ハーデステイ (Larry Hardesty)
- ▶ ジェンキンス (Paul O.Jenkins)

# 先行研究が指摘するポイント

- ▶ 図書館を取り巻く広い観点から図書館の問題を検討する
- ▶ カリキュラムや授業に情報利用を組み入れる
- ▶ 課題が学生・教員・図書館員を結びつける
- ▶ 図書館員と教員の協力関係を構築する
- ▶ 情報化の進展が教員と図書館員を結びつける

# アーラム・カレッジ

- ▶ インディアナ州リッチモンド
- ▶ 1847年に設立
- ▶ 教養カレッジ
- ▶ Friends会が母体
- ▶ 学生の選抜度が高い
- ▶ 学生数 約300名 / 学年
- ▶ 教員数 約 85名



# カーネギー大学分類

## ▶ 学位授与大学

研究大学 , 研究大学

大学院大学 , 大学院大学

## ▶ 総合大学

総合大学 , 総合大学

## ▶ 教養カレッジ

教養カレッジ , 教養カレッジ

## ▶ 2年制カレッジ

## ▶ 専門大学

# アーラム・カレッジ図書館

- ▶ 1847年に設立
- ▶ 地上2階・地下1階
- ▶ 演習室, 支援用スペース
- ▶ 図書館員は  
Administrative Faculty
- ▶ 図書館員は図書館内に  
個室をもつ
- ▶ 大学図書館における学習支  
援のモデル



# アールム図書館の学習支援

▶ 目標：独立した学習者となる  
情報社会でよりよく生きる

▶ 1960年代より学習支援を推進：

図書館ツアー

図書館利用クイズ

図書館利用の講義

新入生のための情報利用ガイダンス

学科関連型指導

新教養カリキュラムにおける利用教育



# アールム図書館の学習支援： 図書館利用クイズ

- ▶ 対象：新入生
- ▶ 目的：図書館に関する学生の知識を確認する
- ▶ 内容：目録の読み方
- ▶ 担当：図書館長
- ▶ スコアの低い学生を対象に補習
- ▶ 2002年に廃止



# アールム図書館の学習支援： 学科関連指導

- ▶ 対象：主として、レポートや発表課題をもつ科目
- ▶ 目的：学生の課題の達成を支援する
- ▶ 内容：関連する情報資源の探索法
- ▶ 担当：図書館員と図書館長

# アールム図書館の学習支援： 学科関連指導

## 利点：

指導内容や方法にあった支援ができる  
カリキュラムの改定や学内政治の問題を引き起こさない  
柔軟に対応できる

## 欠点：

全員を対象としていない  
内容に重複がでてくる  
教員の協力状態に左右される

# アールム図書館の学習支援： 学科関連指導

## 実施の手順

講義要綱を入手する

レポートや発表課題をもつ科目の教員  
に連絡をとり、シラバスを入手する

必要な情報資源を検討する

教員との話し合い

科目用のWebページを作成する

クラスで説明をする

# アールム図書館の教育支援

- ▶ 目標：図書館の教育支援機能を理解する  
情報資源を活用して授業を準備する
- ▶ 1970年代より教員へ教育支援を推進：
  - 教員採用候補者との面談
  - 新任教員への手紙
  - 新任教員のオリエンテーション
  - 新メディア関係のワークショップ
  - 新教養カリキュラムの支援ワークショップ

# アールム図書館の教育支援： 教員採用候補者との面談

- ▶ 対象：採用候補者
- ▶ 目標：図書館が教育面で重要な役割を担うことを印象づける  
候補者と図書館員が顔をあわせる
- ▶ 内容：図書館の概要説明・図書館ツアー
- ▶ 担当：図書館長

# アールム図書館の教育支援： 教員採用候補者との面談

## 実施の手順

候補者をもつ部局から連絡が入る  
候補者のキャンパス訪問時に、30分ほど  
サービスの説明をする

# アールム図書館の教育支援： 新任教員への手紙

- ▶ 対象：着任したばかりの教員
- ▶ 目的：アールム・カレッジでは、図書館が教育面で重要な役割を果たすことを印象づける
- ▶ 内容：教員が必要とするときには図書館がいつでも支援できることを伝える
- ▶ 担当：図書館長

# アーラム図書館の教育支援： 新任教員へのオリエンテーション

- ▶ 対象：新任教員
- ▶ 目的：新任教員が図書館についてどの程度理解しているのかを確認する
- ▶ 目的：アーラム・カレッジでは図書館が教育に深く関わっていることを印象づける
- ▶ 目的：図書館がもつ学生の学習活動支援のビジョンを伝える
- ▶ 担当：図書館長



# アールム図書館の教育支援： 新カリキュラム支援ワークショップ

- ▶ 対象：教養カリキュラム担当教員
- ▶ 目的：教員が情報資源や課題の設定について理解を深める
- ▶ 目的：教員と図書館員，教員間の情報交換の場をつくる
- ▶ 内容：科目の課題や図書館員の支援について検討する
- ▶ 担当：図書館員

# アーラム・カレッジ図書館における 教育支援の特徴

レファレンス質問をもとに、学内のニーズを把握し、プログラムに活かしている

図書館員が専門分野をもっている

必要な支援を必要なときに実施している

教員への印象づけを繰り返し行なっている

学生、教員、図書館員のコミュニケーションの場をつくっている

学内の行事に参加している

# 発表者関係の情報 1

- ▶ 長崎大学図書館協議会「平成16年度講演会：米国の大学図書館における学習・教育活動支援」（2004年12月7日）  
<http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/kendai/topics/koenkai16.html>  
(2005.4.20採取)
- ▶ 金丸明彦・下田研一・長澤多代「長崎大学におけるファカルティ・ディベロップメント・プログラム」『大学図書館研究』69号，2003.12，p.1-14.
- ▶ 長澤多代「図書館情報大学振興会海外調査研究助成報告書」『ゆうりす』No.84，2002，p.20-24.
- ▶ 長澤多代「大学授業改革に求められる大学図書館の役割：大学審議会答申における授業と図書館を中心に」『日本図書館情報学会』48(3)，2002.9，p.105-120.

# 発表者関係の情報 2

- ▶ 「報告：第8回ファカルティ・ディベロップメント「授業評価の結果活用：教材作成研修」 『大学教育機能開発センターニュース』長崎大学, No.3, 2003.8. p.5.
  - ▶ 長崎大学FDプログラム：
    - 第8回FD「授業評価結果の活用：教材作成研修」  
(2003年3月3日-7日)
    - 第18回FD「課題探求・解決型授業の支援」  
(2005年3月7日-11日)
- <http://www.redc.nagasaki-u.ac.jp/info/FD/FDfacultydevelopment-body.html> (2005.4.12.採取)

# 連絡先

長澤 多代 (NAGASAWA Tayo)

〒 852-8521

長崎市文教町1-14

長崎大学 大学教育機能開発センター  
評価・FD研究部門

TEL (095)819-2087

FAX (095)819-2098 (共用)

E-mail [ICI43543@nifty.com](mailto:ICI43543@nifty.com)